

「生涯学習支援に関する 課題と提案」

オープンカレッジ東京 運営委員会
東京学芸大学
菅野 敦

ヒアリングを受けての視点

学校卒業後における障害者の学びの推進方策

障害者に真に求められる学習プログラム・実施体制

【視点1】学校から社会の移行期に特に必要となる学習

【視点2】生涯の各ライフステージにおいてに必要となる学習

学校卒業後における障害者の学習として必要となる内容のイメージ例

参考資料

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

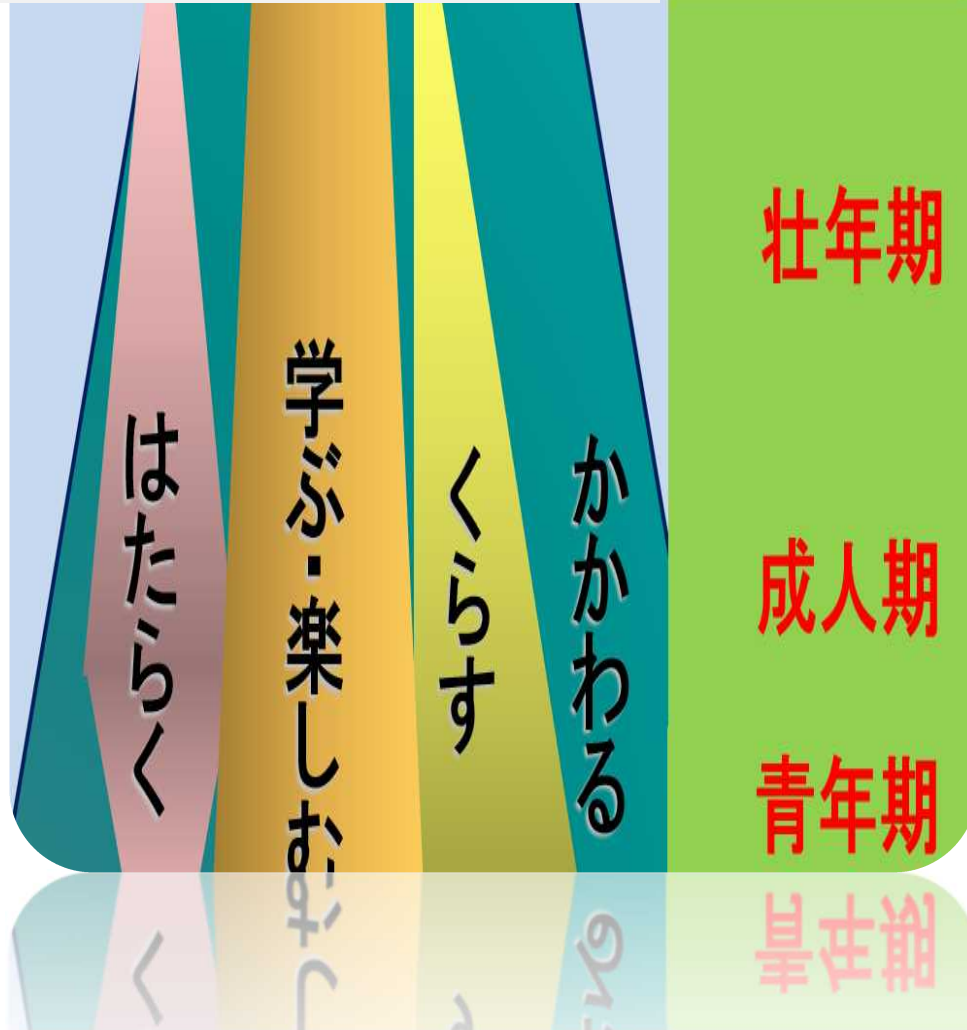
- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など

※学習内容の評価や学習効果の把握、学習の成果を発表・発揮する場の設定

視点の成人期ライフステージでの位置づけ



【視点2】生涯の各ライフステージで必要な内容

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

障害者の生涯学習支援 における課題

生涯学習支援の方向性

学齢期から生涯学習で目指すもの

(前回提案の整理)

(1) 生涯学習支援の方向性①

学齡期からの連続性

学習指導要領の方向性

何ができるようになるか

必要な資質・能力の育成

- ・知識・技能の習得
- ・思考力・判断力・表現力等
- ・人間性や学びに向かう力等
(どのように社会と関わるか)

何を学ぶか

教科・科目の内容の見直し

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学びーアクティ
ブ・ラーニングの視点からの授業改善

(1)生涯学習支援の方向性一②

学齡期からの連続性

成人期の課題

成人期知的障害者のQOLの高い生活は？
どのようなことが困難なのか？・どのような力を身に付ければよいのか？

成人期の生活・学習方法を踏まえ、
どのような内容を学ぶのか？

成人期の生活・学習内容を踏まえ、
どのような方法で学ぶのか？

(1) 生涯学習支援の方向性—③

学齡期からの連続性

成人期の課題

成人期 **何ができるようになるか**

どのようなことが困難なのか？・どのような力を身に付ける必要があるのか？

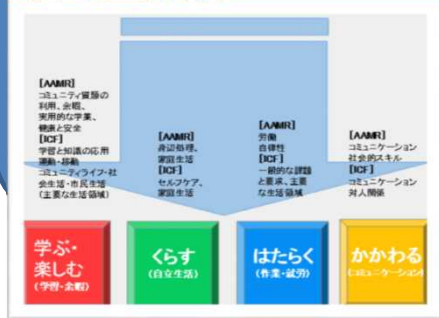
自己決定

(自ら適切に比較し、選択)

何を学ぶか

成人期

生涯発達支援・地域生活支援
の4領域



どのように学ぶか

成人期

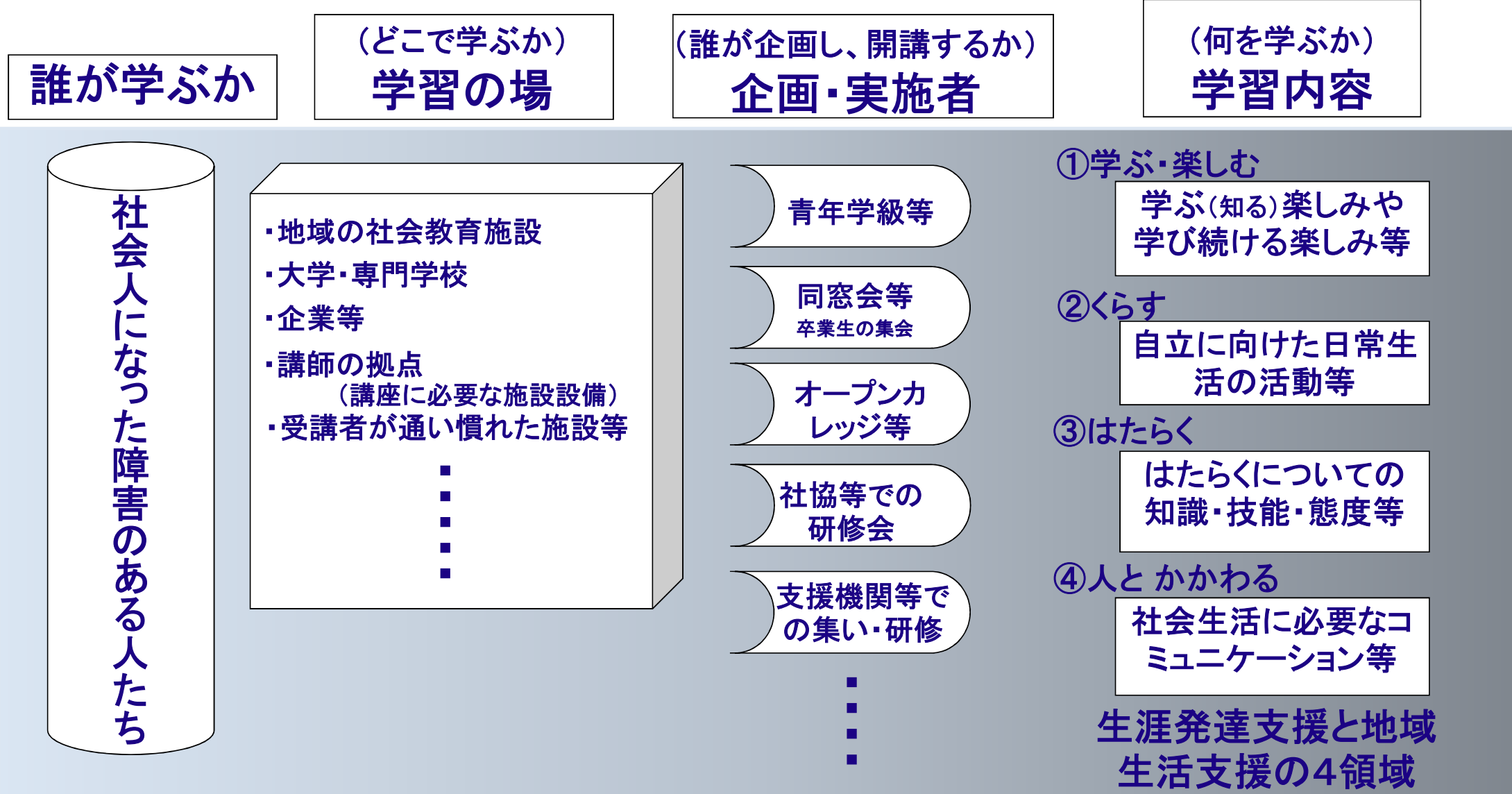
問題解決能力を身に付ける
協働的な学習方法

どのような方法で学ぶか？

(2) 障害者の生涯学習支援における課題

- ・誰が提供するのか(支援者の養成)
- ・どこで学べるのか(障害者の生涯学習の場)
- ・学習内容と方法の開発は誰が、どこで行うのか
- ・学習効果の評価は誰が、どこで行うのか

(3) 障害者の生涯学習支援における課題に対して(提案)



年齢段階別の学習支援の課題

（ライフステージ）
（特に、学習内容）

新たな

★各ライフステージに必要な学習（内容）をどのように決めるか？

各ライフステージ
★学習の進捗を何処（誰）がどのように決めるのか？

- ・履修モデルに相当する考えを持つか？
- ・習得、達成（単位）を何処（誰）が認めるのか？

学校卒業後の障害者に真に 求められる学習内容は？

学習内容に偏りがおこらないよう

「学習領域の設定」

(前回提案の整理)

障害者の生涯学習支援における共通の課題

①障害特性に応じた合理的配慮の体系化

②障害特性の理解ととらえ方:

ひとは生涯にわたって発達している存在であることから、特性を発達の遅れと、(発達)領域間の偏りとしてとらえることが重要である。

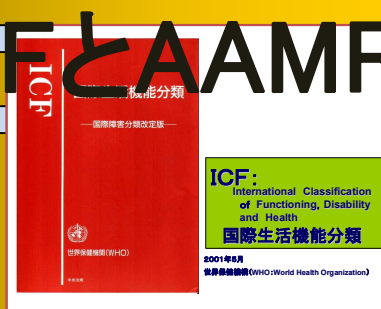
従って、支援に際しては連続性のある発達を基礎・基本において考え、取り組む必要がある。

③システム構築に向けた取り組み:

支援実施の体系化と発信

ICFとAAMRの領域から

[AAMR]
コミュニティ資源の
利用, 余暇,
実用的な学業,
健康と安全



1992年アメリカ精神遅滞学会 (AAMR)

「学習領域の設定」

[ICF]
学習と知識の
応用,
運動・移動,
コミュニティ・社
会生活・市民
生活, (主要な
生活領域)

[AAMR]
身体的
自律性
[ICF]
セルフケア,
家庭生活

[AAMR]
労働
規律性
[ICF]
一般的な課
題と要求,
主要な生活
領域

[AAMR]
コミュニケーション,
社会的スキル
[ICF]
コミュニケーション,
対人関係

学ぶ・楽しむ
(学習・余暇)

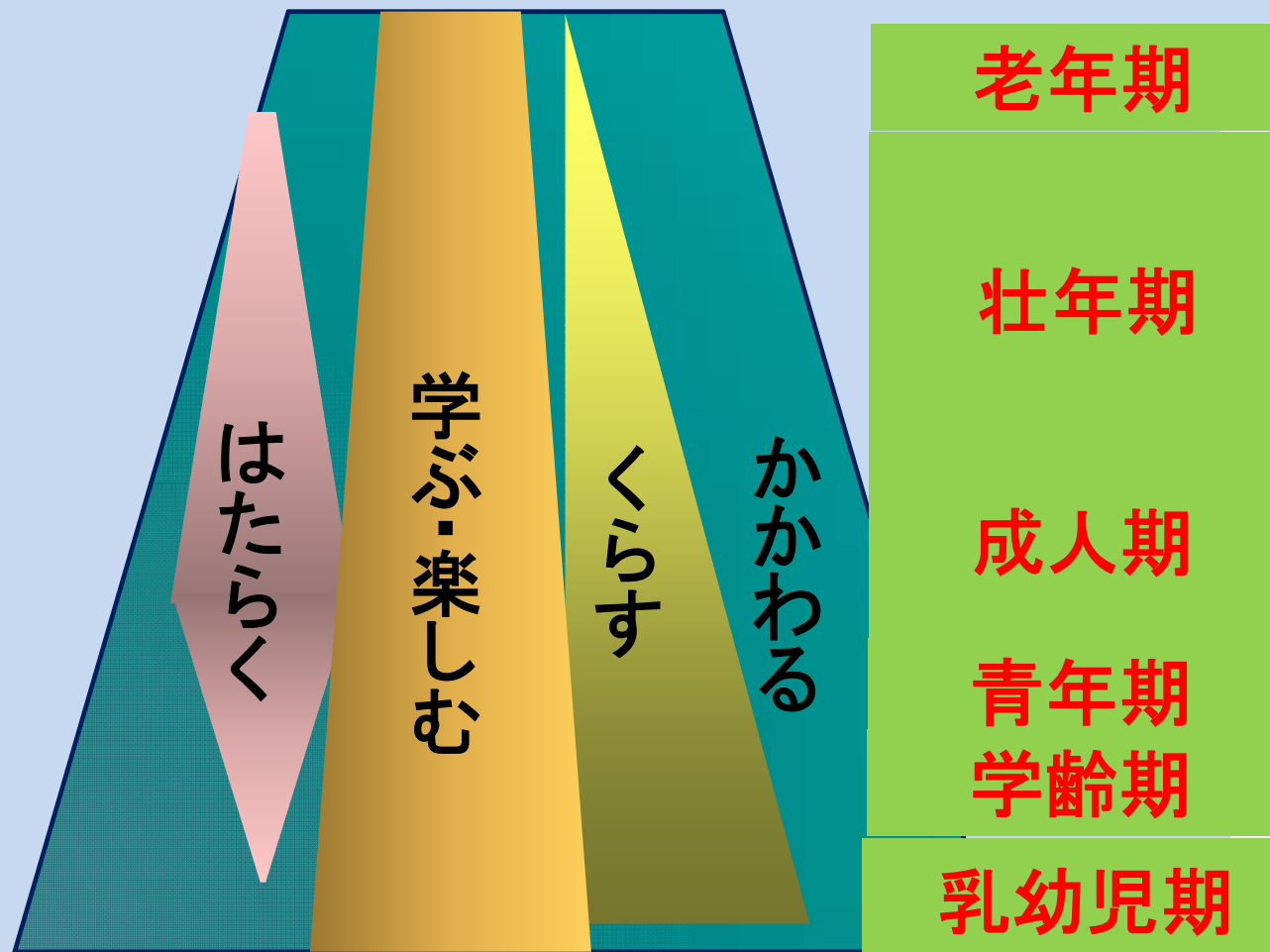
くらす
(自立生活)

はたらく
(作業・就労)

かかわる
(コミュニ
ケーション)

生涯発達・地域生活支援4領域

生涯発達支援と地域生活支援の4領域



青年・成人期の生涯発達支援における支援課題についての検討

生涯発達・地域生活支援4領域

学習・余暇支援領域

余暇活動や社会資源の利用、さらに、自身の健康管理といった、豊かで幅広い社会生活をおくるために必要な領域

自立生活支援領域

食事・排泄・着脱などの身辺処理や清掃・洗濯・調理・理容など日常生活の活動に関する領域

作業・就労支援領域

作業や仕事において求められる技能や態度など、企業や施設などで行われる作業や仕事に関する技能や就労に必要な能力に関する領域

コミュニケーション支援領域

他者と円滑な社会生活を送るために必要なコミュニケーションに関する領域で(行動障害の軽減も含む)、やりとりや要求、報告・連絡・相談、そして経験や知識を生かして相手の気持ちをつかむまでを支援する領域

「文科省が提示した学習内容のイメージ例」の

「領域分け」

生涯発達支援と地域生活支援の4領域
(ICFとAAMRの領域から)

学校卒業後における障害者の学習として必要となる内容のイメージ例

参考資料

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など

※学習内容の評価や学習効果の把握、学習の成果を発表・発揮する場の設定

【視点1】 学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
学校段階で身につけた資質能力の維持・開発に関する活動	×	⑧実用的学業	学習・余暇
主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動	×	⑧実用的学業	学習・余暇
自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習	×	⑧実用的学業	学習・余暇
社会体験や生活体験、農業体験	第6章家庭生活	③家庭生活	学習・余暇
	第8章主要な生活領域	⑧実用的学業	
	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活		
就業体験、職場実習	第8章主要な生活領域	⑧実用的学業	作業・就労

学習領域での維持と伸長が中心で、生活と作業・就労に関する領域がある

学校卒業後における障害者の学習として必要となる内容のイメージ例

参考資料

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など

※学習内容の評価や学習効果の把握、学習の成果を発表・発揮する場の設定

【視点2】 生涯の各ライフステージに必要な内容

個人の生活に必要な知識・スキル

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
健康の維持・増進	第5章セルフケア	⑦健康と安全	学習・余暇
適切な食生活	第5章セルフケア	②身辺処理	自立生活
		⑦健康と安全	
家庭生活や結婚生活	第6章家庭生活	③家庭生活	自立生活
防災、防犯	×	⑦健康と安全	自立生活
ITスキル、情報モラル	×	⑧実用的学業	自立生活
家族の介護	第6章家庭生活	③家庭生活	自立生活

自立生活領域が中心で、健康に関する学習領域がある

学校卒業後における障害者の学習として必要となる内容のイメージ例

参考資料

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など

※学習内容の評価や学習効果の把握、学習の成果を発表・発揮する場の設定

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○社会生活に必要な知識・スキル

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
金銭管理、契約	第6章家庭生活	③家庭生活	自立生活
	第8章主要な生活領域	⑩労働	作業・就労
資格や免許に関すること	第8章主要な生活領域	⑧実用的学業	学習・余暇
公共施設等の社会資源の利用	×	⑤コミュニティ資源の利用	学習・余暇
税に関すること	第8章主要な生活領域	③家庭生活	学習・余暇
社会保障（年金・保険等）	第8章主要な生活領域	④社会的スキル	学習・余暇
住民サービス	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	④社会的スキル	学習・余暇
政治参加	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	④社会的スキル	学習・余暇
裁判や司法参加	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	④社会的スキル	学習・余暇
労働法規	第8章主要な生活領域	⑩労働	作業・就労
地域活動、ボランティア活動	第8章主要な生活領域	⑨余暇	学習・余暇
集団生活でのルール、マナー	第7章対人関係	⑨余暇	コミュニケーション
ストレスマネジメント	第2章一般的な課題と要求	⑦健康と安全	学習・余暇

学習の開発と伸長が中心で、コミュニケーションと作業・就労領域がある

学校卒業後における障害者の学習として必要となる内容のイメージ例

参考資料

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など

※学習内容の評価や学習効果の把握、学習の成果を発表・発揮する場の設定

【視点2】 生涯の各ライフステージで必要な内容 職業において必要な知識・スキル

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
仕事に関係のある知識の習得や資格の取得	第8章主要な生活領域	⑩労働	作業・就労
就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得	第8章主要な生活領域	⑩労働	作業・就労

作業・就労領域が中心である

学校卒業後における障害者の学習として必要となる内容のイメージ例

参考資料

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など

※学習内容の評価や学習効果の把握、学習の成果を発表・発揮する場の設定

生涯を通じて必要な内容

○社会自立して生きる基盤となる力に関すること

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
人と関わる力	第7章対人関係	④社会的スキル	コミュニケーション
コミュニケーション能力	第3章コミュニケーション	①コミュニケーション	コミュニケーション
主体性をもって物事に取り組む意欲	×	⑨余暇	作業・就労
やり遂げる力	第2章一般的な課題と要求	⑥自律性	作業・就労

コミュニケーションと作業・就労領域が中心で学習・余暇支援も関連する

学校卒業後における障害者の学習として必要となる内容のイメージ例

参考資料

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など

※学習内容の評価や学習効果の把握、学習の成果を発表・発揮する場の設定

生涯を通じて必要な内容

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、 教養に関すること

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
スポーツ活動	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	⑨余暇	学習・余暇
文化芸術活動	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	⑨余暇	学習・余暇
文字や歴史、自然科学などに関する学習活動	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	⑨余暇	学習・余暇
時事問題や社会問題等に関する学習活動	第8章主要な生活領域	⑧実用的学業	学習・余暇

学習・余暇支援に関連する領域が中心

「4領域から見た学習内容」

まとめ

学校卒業後における障害者の学習として必要となる内容のイメージ例

参考資料

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
学校段階で身につけた資質能力の維持・開発に関する活動	×	⑧実用的学業	学習・余暇
主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動	×	⑧実用的学業	学習・余暇
自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習	×	⑧実用的学業	学習・余暇
社会体験や生活体験、農業体験	第6章家庭生活	③家庭生活	学習・余暇
	第8章主要な生活領域	⑧実用的学業	
	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活		
就業体験、職場実習	第8章主要な生活領域	⑧実用的学業	作業・就労

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
健康の維持・増進	第5章セルフケア	⑦健康と安全	学習・余暇
適切な食生活	第5章セルフケア	②身辺処理	自立生活
		⑦健康と安全	
家庭生活や結婚生活	第6章家庭生活	③家庭生活	自立生活
防災、防犯	×	⑦健康と安全	自立生活
ITスキル、情報モラル	×	⑧実用的学業	自立生活
家族の介護	第6章家庭生活	③家庭生活	自立生活

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
金銭管理、契約	第6章家庭生活	③家庭生活	自立生活
第8章主要な生活領域		⑩労働	作業・就労
資格や免許に関すること	第8章主要な生活領域	⑧実用的学業	学習・余暇
公共施設等の社会資源の利用	×	⑤コミュニティ資源の利用	学習・余暇
税に関すること	第8章主要な生活領域	③家庭生活	学習・余暇
社会保障（年金・保険等）	第8章主要な生活領域	④社会的スキル	学習・余暇
住民サービス	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	④社会的スキル	学習・余暇
政治参加	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	④社会的スキル	学習・余暇
裁判や司法参加	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	④社会的スキル	学習・余暇
労働法規	第8章主要な生活領域	⑩労働	作業・就労
地域活動、ボランティア活動	第8章主要な生活領域	⑨余暇	学習・余暇
集団生活でのルール、マナー	第7章対人関係	⑨余暇	コミュニケーション
ストレスマネジメント	第2章一般的な課題と要求	⑦健康と安全	学習・余暇

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
仕事に関係のある知識の習得や資格の取得	第8章主要な生活領域	⑩労働	作業・就労
就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得	第8章主要な生活領域	⑩労働	作業・就労

【視点1】 【視点2】 に共通して、生涯を通じて必要な内容

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
人と関わる力	第7章対人関係	④社会的スキル	コミュニケーション
コミュニケーション能力	第3章コミュニケーション	①コミュニケーション	コミュニケーション
主体性をもって物事に取り組む意欲	×	⑨余暇	作業・就労
やり遂げる力	第2章一般的な課題と要求	⑥自律性	作業・就労

文科省が提示した学習内容のイメージ例	ICF	AAMR	4領域
スポーツ活動	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	⑨余暇	学習・余暇
文化芸術活動	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	⑨余暇	学習・余暇
文字や歴史、自然科学などに関する学習活動	第9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活	⑨余暇	学習・余暇
時事問題や社会問題等に関する学習活動	第8章主要な生活領域	⑧実用的学業	学習・余暇

※学習内容の評価や学習効果の把握、学習の成果を発表・発揮する場の設定

「学校卒業後における障害者の学習として必要となる 内容のイメージ例」の4領域からのまとめ

【視点1】学校から社会への移行期に必要な内容

学習領域での維持と伸長が中心で、生活と作業・就労に関する領域もある

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

自立生活領域が中心で、健康に関する学習領域がある

○社会生活に必要な知識・スキル

学習の開発と伸長が中心で、コミュニケーションと作業・就労領域がある

○職業において必要な知識・スキル

作業・就労領域が中心である

【視点1】【視点2】共通して生涯を通じて必要な内容

○社会自立して生きる基盤となる力に関すること

コミュニケーションと作業・就労領域が中心で学習・余暇支援も関連する

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

学習・余暇支援に関連する領域が中心

「学校卒業後における障害者の学習として必要となる 内容のイメージ例」の検討

生涯発達・地域生活支援4領域

学習・余暇支援領域

健康の維持・増進
資格や免許に関すること
学校段階で身につけた資質能力の維持・開発に関する活動
主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活
自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
ストレスマネジメント
スポーツ活動
文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
時事問題や社会問題等に関する学習活動
社会保障(年金・保険等)
公共施設等の社会資源の利用
税に関すること
住民サービス
社会体験や生活体験、農業体験
政治参加
裁判や司法参加
地域活動、ボランティア活動

自立生活支援領域

適切な食生活
金銭管理、契約
家庭生活や結婚生活
防災、防犯
ITスキル、情報モラル
家族の介護

作業・就労 支援領域

就業体験、職場実習
金銭管理、契約
労働法規
仕事に関係のある知識の
習得や資格の取得
就職や転職に関係のある
知識の習得や資格の取得
主体性をもって物事に取り
組む意欲
やり遂げる力

コミュニケーション 支援領域

人と関わる力
コミュニケーション
能力
集団生活での
ルール、マナー

広く4領域にわたる内容であったが、偏りや量に関しては
各ライフステージからの検討が必要

【視点1】学校から社会の移行期に特に必要となる学習

【視点2】生涯の各ライフステージにおいてに必要となる学習

生涯発達支援の視点からみた 課題

年齢段階別の学習支援の課題

（ライフステージ）
（特に、学習内容）

新たな

★各ライフステージに必要な学習（内容）をどのように決めるか？

各ライフステージ
★学習の進捗を何処（誰）がどのように決めるのか？

- ・履修モデルに相当する考えを持つか？
- ・習得、達成（単位）を何処（誰）が認めるのか？

年 齢 段 階 別 の 課 題

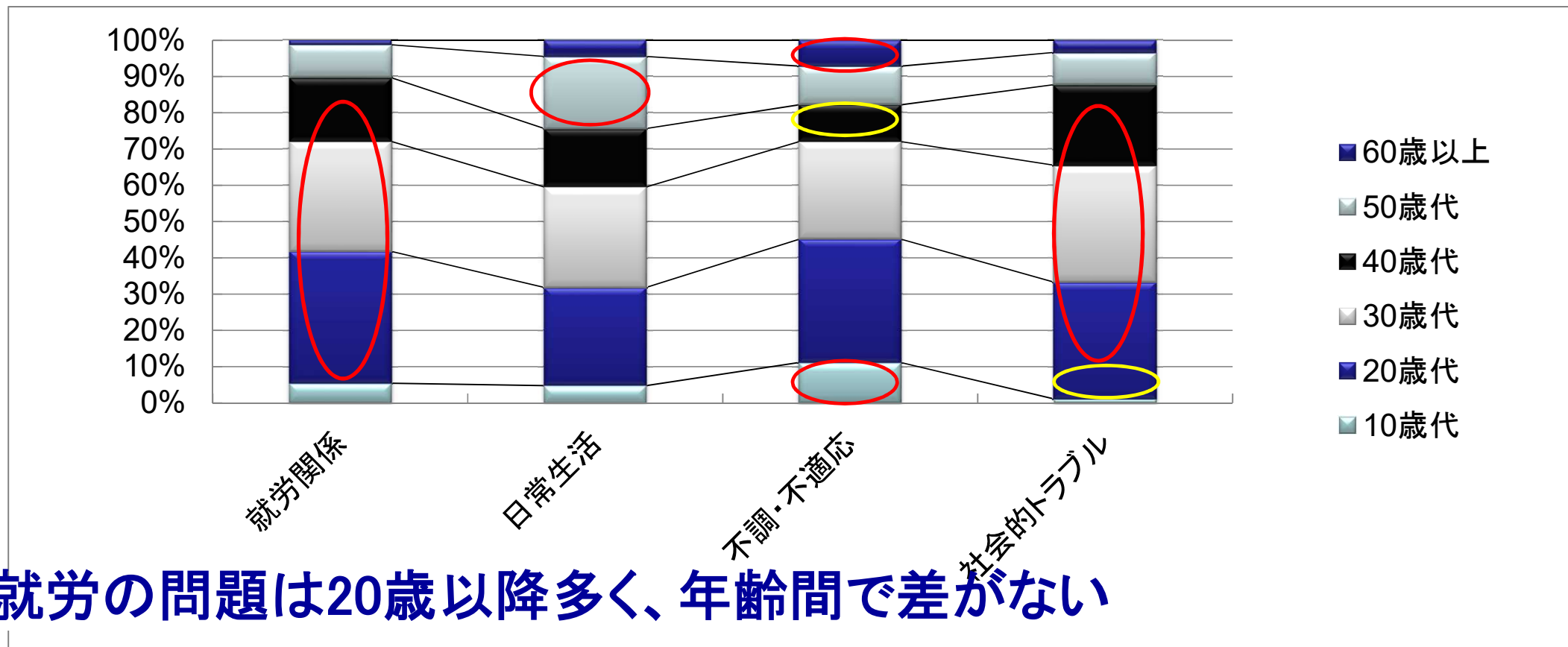
(ライフステージ)

2007年 調査研究

「相談支援事業にみる成人期の実態と課題」

調査対象機関6458機関。うち、返答機関1644機関(回収率25.5%)

各年齢群別の相談内容



就労の問題は20歳以降多く、年齢間で差がない

日常生活に関する相談は、50歳代で増加する

不調・不適應は、10歳代と60歳代が多く、40歳代は少ない

社会的トラブルは、20歳以降、30、40歳代で多く、年齢間で差はな

年齢段階(ライフステージ)別の課題

10代後半は、社会に出ることと、心理的にも成人期への移行期であることから生じる不適応の問題が起こっていた。

20歳代になると就労に関する問題、社会的トラブルに関する問題が生じていた。

20歳代後半から30歳代にかけて徐々に安定していくが

40歳代には徐々に加齢に伴う行動の問題、体力の問題が現れる。その後、

50歳代になると、加齢が原因と考えられる日常生活に関する問題が生じ、

60歳代になると再び、不調の問題が多くなった。

生涯発達支援の視点からみた

成人期、年齢段階別の課題への取り組み

- ～10代：体調の安定につとめて、心身の健康への取り組みとして様々な学習による維持・開発・伸長。
- ～20代：就労に向けた学習と社会生活に向け学習の伸長
- ～30歳：将来の生活の場の決定を想定して、コミュニケーション、余暇、就労に関する学習の開発・伸長。
- ～40歳～：日常生活能力の維持と、老後の生活に向けた新たな日常生活指導の取り組み
- ～50歳～：不調の予防（体調の安定に向けた心身の健康への取り組み）

年齢段階別の学習支援の考え方

(ライフステージ)

学校卒業後における障害者の学びの推進方策

障害者に真に求められる学習プログラム・実施体制

【視点2】生涯の各ライフステージにおいてに必要となる学習

を見出すために

障害者の生涯学習における

成人期の年齢段階と発達課題

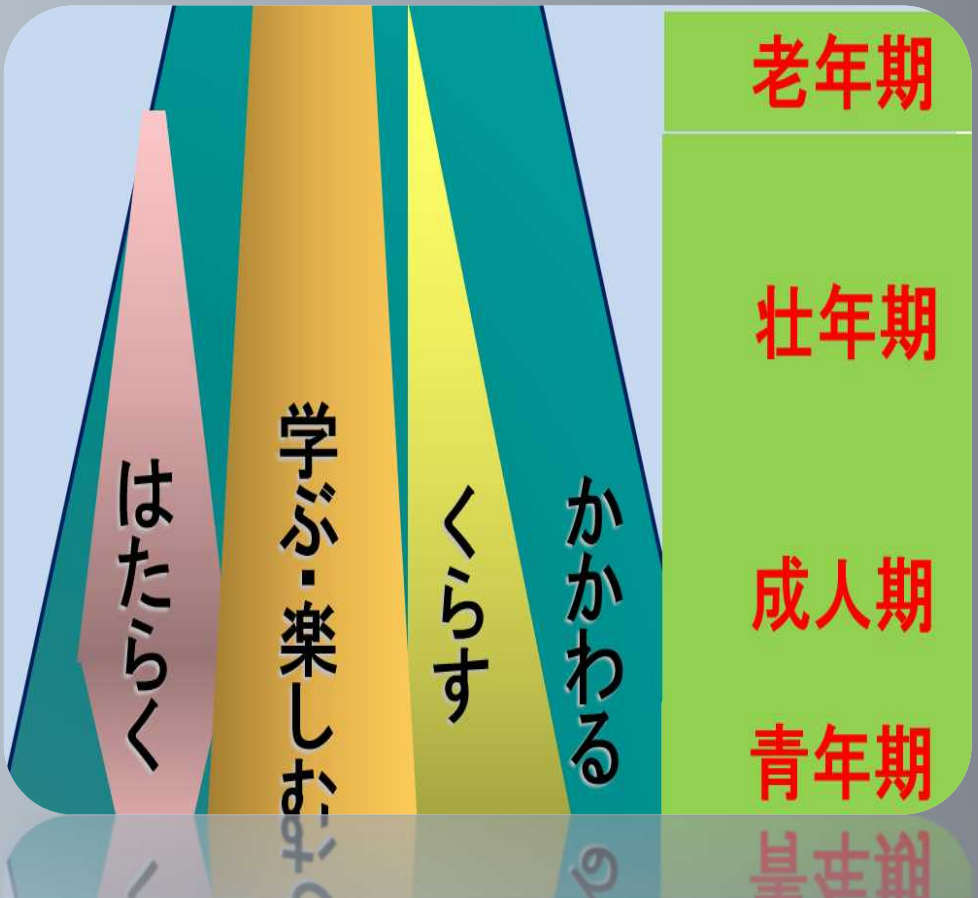
ライフステージ

誰が学ぶか

(何を学ぶか)
学習内容

社会人になった障害のある人たち

- ⑤OA (old adulthood)プログラム (56歳～)
働くことが中心の生活から、暮らす、
学び・楽しむことを中心に据えた時期
のプログラム
- ④SA (senior adulthood)プログラム (46歳～55歳)
加齢に伴う変化が生じ始める時期、高
齢期を見据えた時期のプログラム
- ③MA (middle adulthood)プログラム (31～45歳)
働くことが生活の中心となり、地域で
の暮らしも安定した時期のプログラム
- ②YA (young adulthood)プログラム (23歳～30歳)
移行後、成人期の初めにあたる継続
的な学びの入門プログラム
- ①移行プログラム (18～22歳)
卒後、社会生活・職業生活への移行
期にあたる時期のプログラム



年齢段階別の学習支援の課題

（ライフステージ）
（特に、学習内容）

新たな

★各ライフステージに必要な学習（内容）をどのように決めるか？

各ライフステージ
★学習の進捗を何処（誰）がどのように決めるのか？

- ・履修モデルに相当する考えを持つか？
- ・習得、達成（単位）を何処（誰）が認めるのか？

生涯発達支援・地域生活支援

の4領域から

⑤ OA (old adulthood) プログラム

④ SA (senior adulthood) プログラム

③ MA (middle adulthood) プログラム

② YA (young adulthood) プログラム

自己決定に向けて

(自ら適切に比較し、選択)

SA専修プログラム

MA専修プログラム

YA専修プログラム

① 移行プログラム

生涯学習支援の方向性④

成人期知的障害者の生涯学習で目指すもの

育成を目指す資質・能力の三つの柱

どのように社会、世界と関わり、より良い人生を送るか

学びに向かう力、人間性など

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力

生涯学習支援の方向性④

成人期知的障害者の生涯学習で目指すもの

育成を目指す資質・能力の三つの柱

何を理解しているか
何ができるか

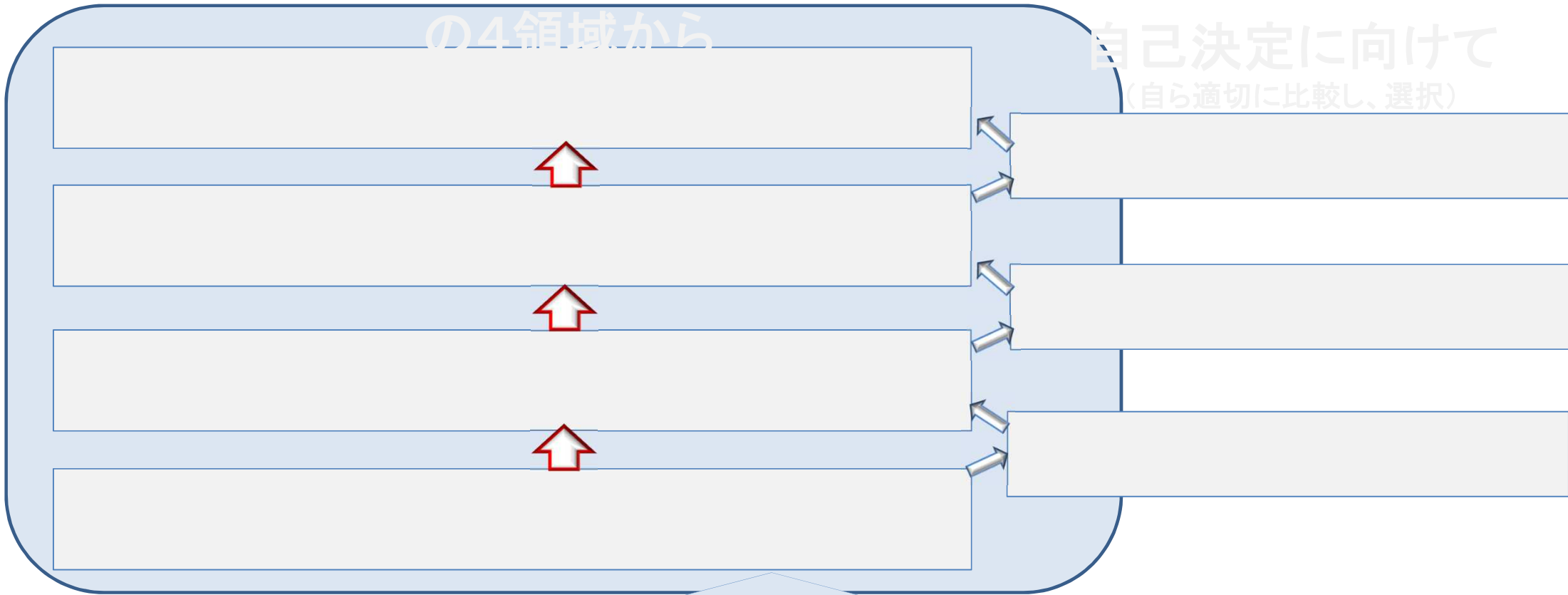
知識・技能

生涯発達支援・地域生活支援

の4領域から

自己決定に向けて

(自ら適切に比較し、選択)



① 移行プログラム

生涯学習支援の方向性④

成人期知的障害者の生涯学習で目指すもの

育成を目指す資質・能力の三つの柱

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力

生涯発達支援・地域生活支援

の4領域から

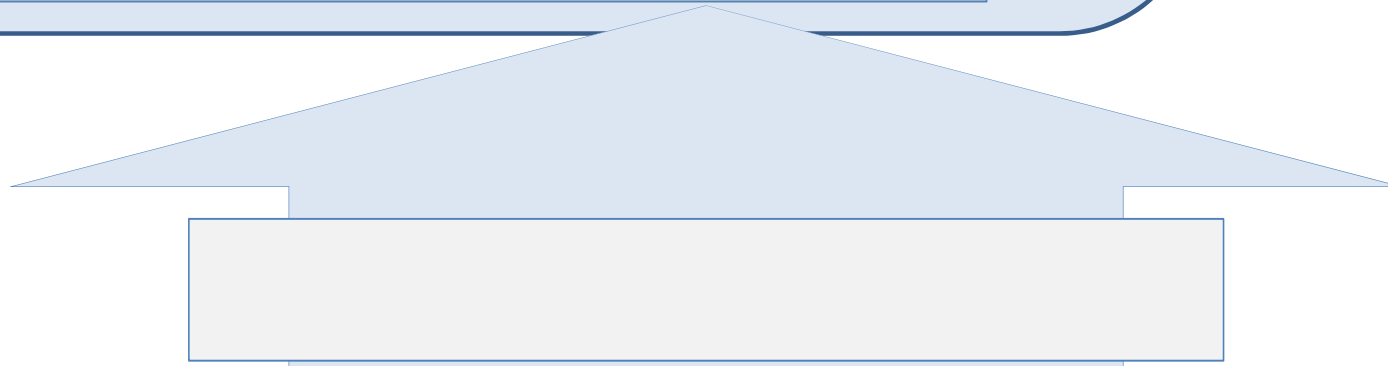
⑤ OA (old adulthood) プログラム

④ SA (senior adulthood) プログラム

③ MA (middle adulthood) プログラム

② YA (young adulthood) プログラム

自己決定に向けて
(自ら適切に比較し、選択)



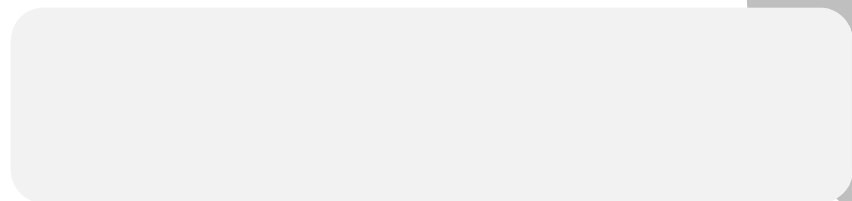
生涯学習支援の方向性④

成人期知的障害者の生涯学習で目指すもの

育成を目指す資質・能力の三つの柱

どのように社会、世界と関わり、より良い人生を送るか

学びに向かう力、人間性など



生涯発達支援・地域生活支援

の4領域から

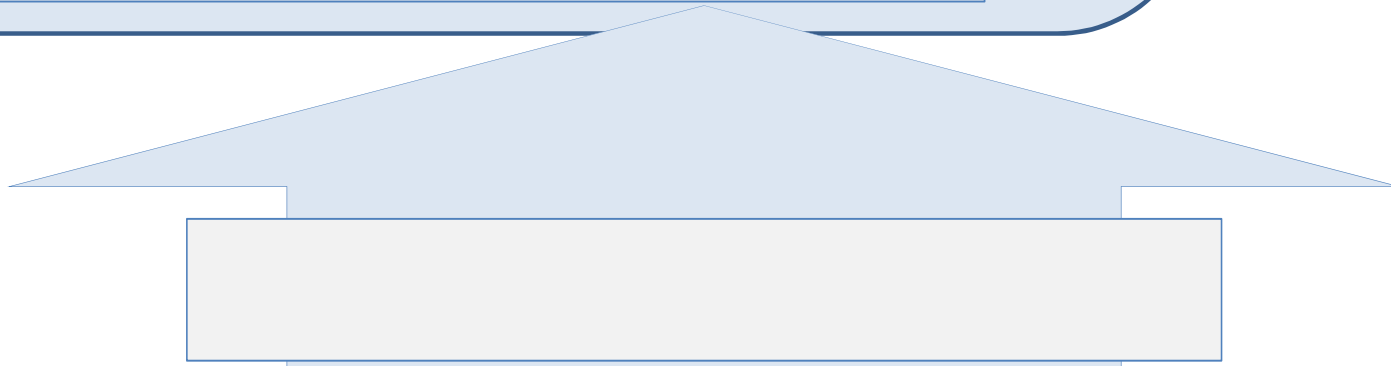
自己決定に向けて

(自ら適切に比較し、選択)

SA専修プログラム

MA専修プログラム

YA専修プログラム



生涯発達支援・地域生活支援

の4領域から

⑤ OA (old adulthood) プログラム

④ SA (senior adulthood) プログラム

③ MA (middle adulthood) プログラム

② YA (young adulthood) プログラム

自己決定に向けて

(自ら適切に比較し、選択)

SA専修プログラム

MA専修プログラム

YA専修プログラム

① 移行プログラム

年齢段階別の学習支援の課題

(ライフステージ)

(学習方法に関する)

どのように学ぶか

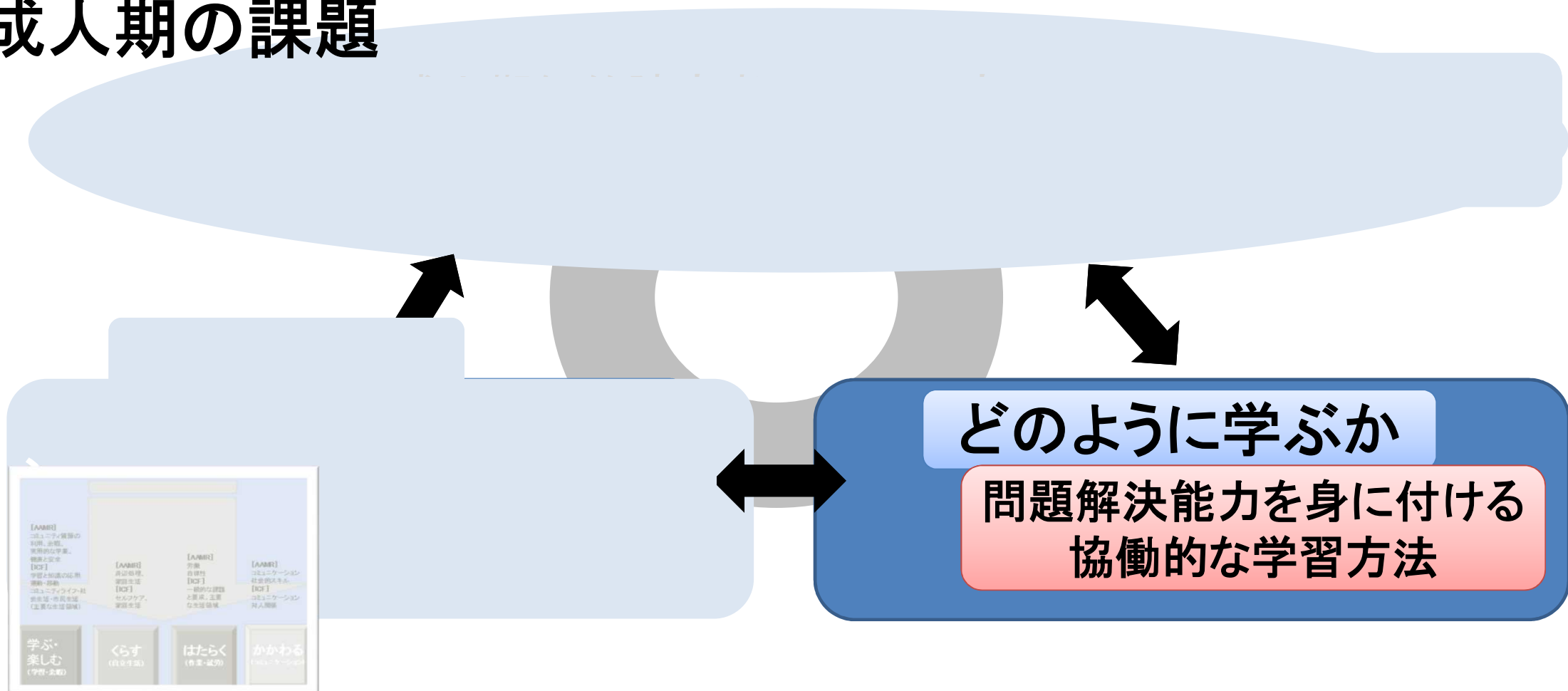
主体的・対話的で深い学び
ーアクティブ・ラーニングの
視点からー

3)

(1)生涯学習支援の方向性—③

学齡期からの連続性

成人期の課題



【AMRR】 生涯学習の 発展・促進 実践的学習者 【ICF】 学習と知識の応用 実践-活動 生涯学習 【ICF】 生涯学習 【ICF】 生涯学習 【ICF】 生涯学習	【AMRR】 生涯学習 【ICF】 生涯学習 【ICF】 生涯学習	【AMRR】 生涯学習 【ICF】 生涯学習 【ICF】 生涯学習	【AMRR】 生涯学習 【ICF】 生涯学習 【ICF】 生涯学習
---	--	--	--

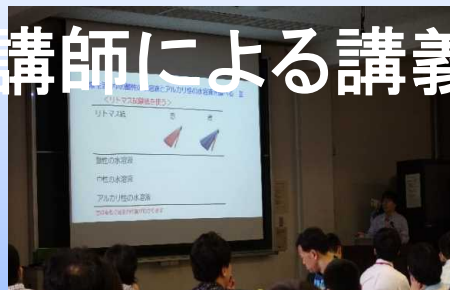
どのように学ぶか

問題解決能力を身に付ける
協働的な学習方法

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び
ーアクティブ・ラーニングの
視点からー

講師による講義



受講生の活動



発表



講師による講義1

スタッフによる講義の解説

演習1

発表1

講師による講義2

スタッフによる講義の解説

演習2

発表2

まとめに代えて

ヒアリングを受けての視点

学校卒業後における障害者の学びの推進方策
障害者に真に求められる学習プログラム・実施体制

【視点1】学校から社会の移行期に特に必要となる学習

【視点2】生涯の各ライフステージにおいて必要となる学習

年齢段階別の学習支援の課題

（ライフステージ）
（特に、学習内容）

新たな

★各ライフステージに必要な学習（内容）をどのように決めるか？

各ライフステージ
★学習の進捗を何処（誰）がどのように決めるのか？

- ・履修モデルに相当する考えを持つか？
- ・習得、達成（単位）を何処（誰）が認めるのか？

年齢段階別の学習支援の課題

(ライフステージ)

新たな

★^{各ライフステージ}学習の進捗を何処(誰)がどのように決めるのか？

- ・個別の教育支援計画に基づいた履修か？
個別の教育支援計画作成期間の延長？
- ・習得、達成(単位)を何処(誰)が認めるのか？
学習プログラム実施主体

障害者の生涯学習支援の考え方

誰が学ぶか

(何を学ぶか)
学習内容

(誰が企画し、開講するか)
企画・実施者

(どこで学ぶか)
学習の場

社会人になった障害のある人たち

⑤OA(オールド・アダルト)プログラム(56歳～)
働くことが中心の生活から、暮らす、
学び・楽しむことを中心に据えた時期
のプログラム

④SA(シニア・アダルト)プログラム(46歳～55歳)
加齢に伴う変化が生じ始める時期、高
齢期を見据えた時期のプログラム

③MA(ミドル・アダルト)プログラム(31～45歳)
働くことが生活の中心となり、地域で
の暮らしも安定した時期のプログラム

②YA(ヤング・アダルト)プログラム(23歳～30歳)
移行後、成人期の初めにあたる継続
的な学びの入門プログラム

①移行プログラム(18～22歳)
卒後、社会生活・職業生活への移行
期にあたる時期のプログラム

青年学級等

同窓会等
卒業生の集会

学習プログラム実施主体

社協等での
研修会

支援機関等で
の集い・研修

・地域の社会教育施設
・大学・専門学校
・企業等

講師の拠点
(講座・主要施設設備)
・受講者が通い慣れた施設等

⋮

⋮